2016年5月15日

自治労活動家育成講座

**今、何が求められているのか**

自治労北海道本部学監　峰崎直樹

**1,われわれが直面している問題は何か**

1. 賃金・労働条件・権利が上がるどころか下げられる現実、格差社会・貧困拡大、少子高齢社会という現実
2. 労働分配率の低下・不安定雇用労働者の増加・労働組合組織率の低下、それらは労使の力関係を反映している。残念ながら、労働者側の結束力の低下という現実
3. 背景にある、福祉国家という経済政策に対する新自由主義による攻撃(経済をダメにしたのはケインズ経済学による福祉重視政策による怠惰の蔓延、アニマルスピリッツの衰退などの批判)、市場原理主義・サプライサイド経済学の出現、規制緩和や民間活力重視
4. 問題は、経済政策を再び転換させることなのだ、つまりルールの転換が必要なのだ
5. それでも、先進国の高度成長はもはや不可能、働く者が安定した幸福実現社会こそ求められる社会へ

**2,どうしたら、変えていけるのか**

1. もう一度歴史を振り返ってみよう
2. 働く者の力をどう再構築していけるのか、労使対等の力関係を再構築していく運動論・組織論・経済政策論の重要性
3. 最後は、政策は力が作るのであり、政策は政治の場で法律や予算となる。
4. 公共政策を理解するには時間とエネルギーが必要になる。多くの無関心有権者は、関心を持たないで、時代の雰囲気に左右されるか棄権する。正しい見解を広げるよりも、国民の雰囲気に迎合するのがポピュリズム
5. 安倍政権も保守政権ではあるが、ポピュリズムという側面もある(安倍ノミクスと労働者権利拡充政策は矛盾するが、選挙勝利優先)

**3,労働者の権利を守り、拡充していく**

* 1. 職場にある不公平・不平等な事への怒りの結集
	2. 一人で戦えるのか、仲間の結集の困難性
	3. 権利は法律にまで高めて行かなければならない
	4. 最低限の権利の確立と底上げの重要性

**4,憲法、法律・条令、規則、規範、「政策は正しさが作るのではない、力が作るのだ」**

1. アメリカ大統領予備選でのサンダース候補の訴えは、若者の心をとらえている。ウォール街による巨大金融資本の政治家買収が浸透、ロビー活動による政策転換がすすむ。巨大化するレントとレントシーキング活動
2. 日本でも、政官業癒着の構造がすすむ。
3. 大きすぎて潰せない、無責任なモラルハザードが蔓延、リーマンショックの残した傷跡
4. 大企業CEOの巨額の報酬、超富裕層の税負担の大幅削減へ
5. タックスヘイブンによる脱税・節税の横行、パナマ文書の与えた衝撃

**5,どうしたら力を作ることができるのか、選挙に勝つことによる政権交代という力はどうしたら作れるのか**

1. 情報公開を徹底的に広げていく、正しい情報を掴む努力
2. 何が正しい政策なのか、価値判断力・理解力・文化力を学んでいく必要性
3. 政権を目指す政党にとって短期的な視野では不十分、中長期的な視点をもった戦いの展開を

**6,仲間の結集へ、全ての力は労働者の結束力なのだ**